

2018年3月期通期決算に関する主なご質問

Q：今回発表した普通株の復配と、種類株償還方針とのバランスについて。

A：過去5期無配が続いていましたが、安定して黒字を出せる利益水準まで業績改善したことを踏まえ、復配を決定しました。配当は上場会社の使命であると考えています。A種種類株は、バランスシートの安定化を目的に発行したものであり、償還は、損益・自己資本等を考慮して検討します。ただし、部分的にでも早期の償還を目指したいことには変わりはありません。

Q：2018年3月期第3四半期で低調だった自動車用ガラス事業が第4四半期で改善した理由は？また、これまで好調であった高機能ガラス事業の利益が第4四半期で急減した要因は何か？

A：自動車用ガラスの販売は季節性があり、第4四半期が最も活況になります。一方で高機能ガラスは、日本と中国に顧客が多く、第4四半期では日本の年末年始や中国の旧正月の影響で数量が減ったことに加えて、年度末の在庫調整の影響もあります。このような季節要因を除けば各地域とも市場動向は概ね安定的に推移しています。

Q：今期の営業利益予想は前期比53億円増の410億円とのことだが、増益要因は何か？

A：建築用ガラスは、北米オタワ工場の再稼働により、直近のソーラー用ガラス出荷が伸びます。自動車用ガラスは欧州が引き続き好調な見通しであるに加えて、南米の市況回復も貢献する見込みです。高機能ガラスでも、ディスプレイやガラス繊維分野での改善を見込んでおります。エネルギーコスト増の影響はありますが、継続的なコストダウンで吸収してまいります。

Q：今後ソーラー用ガラスの増産投資によって数量が増えることでVA売上比率上昇や売上、利益が拡大するというのか？

A：その通りです。新規投資によるソーラー用ガラスは今後2年以内に稼働しますが、製品構成の改善や数量増により、VA売上比率の向上や売上、利益の増大に貢献する見通しです。

Q：ソーラー用ガラスへの380億円の投資について、ファーストソーラーとの長期契約を含め、十分なリスク管理が出来ているのか？また、投資が回収できるタイミングはいつか？

A：今回の投資は長期契約に基づくもので、事業リスクはゼロとは言わないまでもかなり低いものと考えています。これだけ大量の薄膜ソーラー用のガラスを生産できるのは実質的には当社のみであり、事業機会は大きいと考えています。また一方で、オンラインコーティング技術はソーラー用だけでなく、建築用、自動車用、ディスプレイ用など他の事業にも生かせるものです。今回の投資額は数年内に回収できるものと見ています。

Q：今回、設備投資が増えることで、設備投資は減価償却費の範囲内、との従来方針に変更はあるのか？

A：基本的に方針に変更はないが、このような成長投資については年により年度償却費の枠を超えるものもありえます。一方で設備投資の優先順位付けや保有資産の最適化などにより、中長期的にはバランスさせたいと考えています。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもついており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。